

重点取組分野	令和 4 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	①基礎・基本の定着に重点を置くとともに、自分の考えを伝える場面を意図的に授業に取り入れ、主体的に問題解決していく中で豊かな表現力の育成を目指す。②「学習の手引き」を活用した学習を進めるとともに児童の実態の把握に努め、個に応じた指導・支援を工夫する。	①算数科の重点研究を通して、自分たちの課題を解決するという意識を高めたり、本校児童の目指す表現の姿がわかったりした。②「学習の手引き」を年度初めに確認し、個に応じた学習を進められるよう努めた。毎年、確認事項を加えバージョンアップさせている。	B
人権教育	①違いに気づき、互いに認め合うことから、他者への思いやりの心を育成する学びを推進する。②豊かな心をはぐむため道徳を充実させ、日常生活にある効果的な教材を通して、自分も相手も大切にすることができるようにする。	①特に人権週間での各クラスでの取り組みを通して、個々の違いを認め合い、人権感覚を高める活動がすすることができた。②学習ごよみで、教科や行事とのつながりを意識し、日常生活を想起して学習するように努めた。友達との話し合いを通して、新しい考えに気づくことができた。	A
健康教育	①家庭と連携し、規則正しい生活を送ろうとする姿勢を培うとともに、健康課題については学校保健委員会と取り上げ、子ども自身が健康意識を高め、主体的に健康づくりができるようにする。②体力向上を図るために、毎週水曜日に35分の昼休みを設定し、運動時間を確保する。	①年3回の生活リズムカードの実施、学校保健委員会ではメディアと健康について取り上げ、学校と家庭の両面から使い方について考えることができた。②子どもの体力向上に向けて左記のようにした。家庭で元気に運動する子どもの様子が多く見られた。	B
自分づくり教育	①地域で体験的に学ぶ機会を積極的に設け、他者との関わりの中で自分の思いを表現しながら一人一人が自己有用感を高めるようにする。②計画的に「自分づくりパスポート」を活用し、自らの学習状況やキャリア形成を見通したり、ふり返ったりして、子ども自身の姿や成長を自己評価できるようにする。	①校内で出前授業やオンライン授業を通して、一人一人が自己有用感を高める機会をもつことができた。②「自分づくりパスポート」を活用して、自分の成長に気づいたり、今後の見通しをもつたりすることができた。	B
いじめへの対応	①いじめを「小さい芽のうちに摘む」ことを意識し、児童の心情に寄り添いながら、早期発見・早期解決に努める。②月1回以上の定期的ないじめ防止対策委員会の実施や、年2回のY-Pアンケートを通して、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、再発防止に努める。	①小さな気づきを教職員で共有し、いじめ認知を積極的に行うことで、組織的な対応を行うことができた。また児童指導ノートを活用し、事業を素早く共有することができた。②いじめ防止対策委員会の中で、児童の細かい様子を全職員で共有できた。Y-Pアンケートの結果を授業改善や学級編成に生かした。	A
児童指導	①「桜井スタンダード」が社会情勢に沿うものかどうかを確認しながら改善し、全職員で声をかけ、学校生活を安心して送れるようにする。②「Y-Pアセスメント」を活用し、多面的な児童理解と具体的な支援を実践する。③不登校児童、家庭へのこまめな連絡を行い、学習支援のあり方を考え、学びが継続できるようにする。	①「桜井スタンダード」を活用し、全職員で指導に当たった。保護者や児童から質問が出た際には、確認や再考を行い、共有した。②問題行動を繰り返す児童に対して、寄り添う形で支援を行った。③不登校児童の保護者と信頼関係を築くために、職員で役割分担をし、密に連絡をとった。	B
人材育成・組織運営(働き方)	①校務分掌の仕事内容・スケジュール・責任者を明示し、計画的で効率的な運営を図る。②月に1回のメンター研修を通して、児童・教科指導力を高める。	①計画的な運営はされたが、昨年度からの引継ぎがうまくされなかった。また、情報が共有されていないこともあった。②メンター研修では、各自の課題や疑問をもとにした内容で取り組むことができ、指導力が高まった。	B
地域学校協働活動	①学校運営協議会が初年度なので、会の在り方に関して委員で意見交換を行い、桜井小協議会の基盤を作る。②「地域学校協働活動」におけるボランティア活動を見直し、活動のさらなる充実を図る。	①初年度ではあったが、年4回会を実施し、意見交換や情報共有を通して、本校の会の基盤を作ることが出来た。②コロナ禍のため、多くの活動はできなかったが、今できる活動を行い、学校と地域の連携を深めることが出来た。	B
特別支援教育	①児童の実態把握について教職員の理解を深めるとともに学習環境の整備、適切な支援を行う。②個別の指導計画を作成し、個に応じた指導をチームとして取り組む。	①児童理解会議、ケース会議や職員研修を通して、児童一人ひとりに寄り添った支援を考えることができた。具体的な支援教材の充実を図りたい。②個別の教育支援計画を整理し、保護者と共有する機会をつくることができた。	B
ブロック内評価後の気づき	3年ぶりに小中でそれぞれ授業公開を行うことができ、お互いの学校の様子や授業の様子、児童生徒の様子を実際に見ることが出来たのは大変良かった。授業後の研究会も、部会に分かれ、授業に関して熱心な研究討議、小中間の情報交換が行われた。また、夏のブロック研究会では、区内の小学校校長先生を講師として招き、人権に関する研修を実施し、人権感覚を磨くとともに、個々の研鑽を深めた。今年度小中の相互理解が深まったので、次年度はさらに内容や方法を工夫して、授業参観、授業後の会、研修会をより効果的なものにしていきたい。		
学校関係者評価	学校運営協議会を今年度立ち上げ、全4回実施した。最後の会で実施したアンケートでは、学校が重点的に取り組んだ、児童に身につけさせたい力や生活習慣、学校の教育活動や教職員の様子について高い評価をいただいた。また「コロナ禍であるのに、子どもたちが明るく、挨拶できる環境であるのを感じられる事が多かった。」という言葉もいただいた。反面、「学校に来る機会が少ない。」という意見もいただいているので、次年度は、状況に合わせて、保護者や地域の方が学校に来て、子どもや学校、教職員の様子を見ることが出来る場をできる限り設定していきたい。		

中期取組目標振り返り	児童も教職員も「チャレンジ」を合言葉に、様々な教育活動に取り組んだ。○算数科の重点研究は1年目であったが、授業研究を通して多くの事を学び、個々の授業改善に生かすことが出来た。○人権研修で学んだことを日々の児童との関りに生かしたり、学年に応じた人権週間での取組により、個々の人権の意識が高まった。○風通しの良い職場づくりを目指し、チーム桜井で研究したり、様々な事業の対応をしたりすることができた。○学校運営協議会1年目ではあったが、4回の会を重ねることで、本校の協議会の基盤を作ることができ、地域との連携を深めることが出来た。
------------	--

重点取組分野	令和 5 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	○算数科の重点研究を通して、めざす追求・表現する姿を明確にして、支援のあり方を研究し実践を重ねる。○教師一人一人が目標をもち、授業力向上をめざす。		
人権教育	①個々の違いに気づき、認め合うことから、他者への思いやりの心を育成する学びを継続して推進していく。②道徳の学習を充実させ、日常生活にある効果的な教材を通して、自分も相手も大切にすることができるようにする。		
健康教育	①家庭と連携し、規則正しい生活習慣の取組を継続していく。健康課題については学校保健委員会と取り上げ、子ども自身が健康意識を高め、主体的に健康づくりができるようにする。②体力向上を図るために、毎週水曜日に35分の昼休みを設定し、運動時間を確保する。		
自分づくり教育	①地域で体験できる機会を積極的に設け、自分の思いを表現したり、自分の成長を実感できるようにする。②「自分づくりパスポート」の内容を見直し、キャリア形成を見通すことができる内容にしたり、子ども自身の姿や成長を感じられるようにしたりする。		
いじめへの対応	①いじめを「小さい芽のうちに摘む」ことを意識し、児童の心情に寄り添いながら、早期発見・早期解決に努める。②月1回以上の定期的ないじめ防止対策委員会の実施や、年2回のY-Pアンケートを通して、認知された案件の経過確認を丁寧に行うことで、再発防止に努める。		
児童指導	①「桜井スタンダード」が児童の実態に一致するものかどうかを確認しながら改善し、全職員で声をかけ、学校生活を安心して送れるようにする。②Y-Pを活用し、多面的な児童理解と具体的な支援を実践する。③不登校児童、家庭へのニーズをしっかりと引き出し、こまめな連絡と支援を考え、学びが継続できるようにする。		
人材育成・組織運営(働き方)	①校務分掌の組織が改編されるので、早めに計画を立て、効率的な運営を図る。データや資料をPC上の共有フォルダやファイルにとじ、情報の共有を図る。②月に1回のメンター研修を行う。各教科の主任を講師として、学習のポイントや評価の仕方、あゆみの記入などについて学び、指導力を高める。		
地域学校協働活動	①学校運営協議会の2年目なので、テーマを決めて意見交換を行うなどして内容を充実させ、会の話し合いがより学校経営に反映できるようにする。②本校のボランティア活動のあり方を見直すとともに、CDNを中心に活動を再開し、地域との連携をさらに深める。		
特別支援教育	①会議や研修を通して確認した支援方法を全職員で共有し、学校全体で児童一人ひとりを見る体制づくりを推進する。②作成した個別の教育支援計画をもとに、具体的な支援教材を整備し、特別支援教室を充実させる。		
ブロック内評価後の気づき	b10		
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--

重点取組分野	令和 6 年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
授業改善	c1		
人権教育	c2		
健康教育	c3		
自分づくり教育	c4		
いじめへの対応	c5		
児童指導	c6		
人材育成・組織運営(働き方)	c7		
地域学校協働活動	c8		
特別支援教育	c9		
ブロック内評価後の気づき	c10		
学校関係者評価			

中期取組目標振り返り	
------------	--